

1. 国際奉仕——ロータリーの目的の第4項に記載
「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、
国際理解、親善、平和を推進すること」
2. ロータリーにおける国際奉仕の歴史的経緯
初期のロータリーには、今日的人道的奉仕活動を主体とした国際奉仕の概念はありませんでした。(1905年相互扶助と親睦でスタート、1906年社会的意義の導入)

<年代を追って、国際奉仕分野に関する事項を纏めてみました>

- ① 1910年にカナダ、イングランドにもRCが拡大したことから、ロータリアン同士やロータリアンの子弟の相互訪問が行われ、これが外国のクラブ同士との交流に発展した。
- ② 1914年第一次世界大戦が勃発し、アメリカからヨーロッパに派遣されたロータリアンの子弟の兵士に対しイギリスのロータリアン家庭がホストをしたという記録が残っている。また、アメリカ、イギリス、アイルランド、カナダのRCがヨーロッパ各地の避難民に対する物資援助をしたり、傷病兵に対する慰問活動、終戦で復員してくる軍人に対するボランティア活動などを行った。
- ③ 1917年アーチ・クランフはアトランタ国際大会で、「ロータリーが基金を創り、全世界的な規模で、慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、何か良いことをしよう」と提案して、「アーチ・クランフ基金」が設立。
(最初の寄付はカンザスシティRCから寄せられたUS \$ 26.50)
——アーチ・クランフ基金は1928年に「ロータリー財団」と名称変更された。
- ④ 1921年国際大会が初めてアメリカを離れてスコットランドのエジンバラで開催されたことを記念して、「奉仕というロータリーの理想に結束した職業人の世界的友好による理解、善意及び国際的平和の増進」という国際奉仕の考え方が発表され、1922年ロータリーの綱領に加えられた。現在「ロータリーの目的の第4項」として明確化されている。
- ⑤ 1927年オステンド大会で四大奉仕(クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕)の採択によって、クラブの組織管理運営と奉仕の実践活動が一致した。
- ⑥ 1934年から1937年にかけて、ポール・ハリスはイギリス、ヨーロッパ、極東(日本には1935年東京、京都、神戸RC訪問)、南アメリカのRCを訪問しました。ロータリアンの友情によって国際理解と世界平和を目指す試みを、国家間の緊張が高まる中で彼自身が実行したとして高く評価する向きも多いようです。
しかし、その努力も実らず、1938年ドイツ、オーストリア、イタリアでRCが解散させられ、1939年第二次世界大戦が勃発し、1940年には日本もRIから脱退を余儀なくされました。日本のRCはRI脱退後もその名称を変更するなどして、例会を継続(29RCが例会の曜日や地域の名称に変更)し、これが1949年にRIの再加入後の飛躍につながったと言われている。
- ⑦ 1949年サンフランシスコの国連設立準備会には、アメリカ合衆国国務省から要請を受けて、RIから11名の顧問団が参画し、国連憲章の原案作成に当たり、その会合に出席した世界各国の代表のうち、7名の委員長と20名の代表がロータリアンであり、代議員を合わせると49名のロータリアンがこの作業に参加した。
- ⑧ 1962年インドのニッテイシ・ラハリーRI会長は「世界のどこかの片隅に、一人でも不幸な人がいる限り、我々ロータリアンは幸せになることは出来ない」と述べ、**世界社会奉仕**の概念を提唱しました。当初は、文盲対策、スラム街対策などが実施され、日本におけるWCS活動の第1号は、365地区(大阪、京都、奈良、和歌山、福井)によるインドの救済事業です。
- ⑨ 1967年世界社会奉仕活動がRIの常設プログラムになった。
- ⑩ 1979年RI会長クレル・レヌーフが「**3Hプログラム**(保健 Health、飢餓追放 Hunger、人間性尊重 Humanity)を提唱

- ⑪ 2007年R I 理事会は「四大奉仕部門」をクラブ定款に明記することを、規定審議会に提案し採択された。この中の「他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動」とはWCSを念頭に置いた表現と考えられている。

これによりWCSはロータリーの国際奉仕活動の一分野として明確化された

——それまでは、従来の綱領にそぐわない活動との意見もあった（お金を出すという行為がロータリーの奉仕活動として認められるか）

——決議 23-34 違反であるという意見もあった（本来政府や専門団体がおこなう活動をロータリーが重複して行うことは決議 23-34 違反である）

3. 国際奉仕の基本方針——2010年手続要覧 119P

「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」——ロータリーの綱領

「自由、正義、真実、宣誓の神聖、人間尊重は、ロータリーの原則に本来備わっているものであり、また、国際平和と秩序の維持及び人類の発展に不可欠である」——ロータリー章典

4. 国際奉仕は、概念上、四つの一般分野に分類できる——2010年手続要覧 119P

- ① 世界社会奉仕プログラム—9目標と8事項の推進活動（手続要覧 120P）
- ② 国際レベルの教育及び文化交流活動（ロータリー友情交換——手続要覧 121P、国際共同委員会——手続要覧 122P、世界ネットワーク活動グループ——手続要覧 123P）
- ③ 特別月間と催し
——2月は「世界理解月間」と指定され、世界平和に不可欠な理解と親善を強調したクラブプログラムと活動を実施するよう要請されている
——2月23日は「世界理解と平和の日」であり、最初のロータリークラブ会合が開かれた記念日である。世界理解と平和の日として順守されている。各クラブは、この日、国際理解と友情と平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければならない。
- ④ 国際的な会合——国際大会、国際協議会、規定審議会、日韓親善会議、日台親善会議等

その他として、海外のクラブと「姉妹クラブ」、「友好クラブ」、「Twin Club」といったような名称で、国際親善と親睦活動を推進しているクラブも多い。このような友好関係を通じて相手国や第3国でWCSプロジェクトに取り組むケースも多く見られる。

5. 個々のロータリアンの責務——9項目（手続要覧 119P）

6. ロータリークラブの責務——6項目（手続要覧 120P）

7. 高萩RCの世界社会奉仕活動「カンボジア・ストリートチルドレン支援」

内容については、2013.9.18「カンボジア・ストリートチルドレン支援プログラムの経過について（報告）」参照

——高萩RCのHP：「奉仕活動——ロータリー情報」のページに掲載

8. R I 第 2820 地区の世界社会奉仕活動「この指とまれ」

「この指とまれ」は、R I 第 2820 地区独自の世界社会奉仕プログラムである。

一つの事業をするにあたって、資金的にもノウハウについても困難な事業を、地区内のクラブが一体となって社会貢献できるものである。

2004～05年度に始まった地区の「この指とまれ」は、地区のWCS委員会が中心になって取りまとめ推進し、毎年度7、8件のプロジェクトが提案され、各クラブから資金支援を受けてプロジェクトが実施されている。

（参考：高萩RCのカンボジア支援については、9年間で30クラブと5人のパストガバナーから総額1,942千円の資金支援を受けた）